

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800324		
法人名	社会福祉法人天心会		
事業所名	グループホームすこやか2		
所在地	福島県喜多方市松山町村松字北原3656-1		
自己評価作成日	令和 4年 12月27日	評価結果市町村受理日	令和5年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●利用者様にご自宅で過ごされていらっしゃる時と同じように、馴染みの方々と好きな事をされ安心して生活が送れるように支援している。●センター方式ケアプランを取り入れ、利用者様一人一人を深く理解することで、思いや希望をくみとったケアプランに繋げている。●医療・福祉ゾーンの一部に位置し、必要な時に専門医の医療を受ける事が出来る。協力医院との連携により24H対応出来るようになっている。

●毎月部署会議、勉強会を実施、又同法人、グループ単位での研修会が計画され、知識を深め職員の質の向上に努めている。●法人、グループ単位での感染防止、身体拘束廃止、虐待防止、サービス向上、リスク委員会、教育委員会、等に所属し、検討、対策、向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない(コロナ禍の為制限あり)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めの部署会議で地域密着サービスについての話をしている。理念についてはトイレなどに貼っていつでも確認出来るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方が、コロナウイルスの終息のわらのお守りや野菜を持って来て下さった。以前は地域の行事等に積極的に参加していたが、コロナ禍の中で自粛中である。(職員のみ地域のいきいきサロンに参加させて頂いた。)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は認知症カフェ等を行っていたが、コロナ禍の為開催出来てない。認知症について悩みや相談事がある時はいつでも相談できる事を地域向けのすこやか新聞でお知らせしている。、		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、別棟の法人会議室で定期的に開催している。できない時は書面開催している。毎回委員の中から出た意見を取り入れ職員間で情報を共有し、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂き、活動内容や事故報告に対して意見を頂いたり、他事業所の情報等を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の指針に基づき定期的に会議を開催し、その後事業所内で話し合いを持っている。年2回のセルフチェックも実施し、振り返りをしている。玄関も施錠はしておらず、センサー使用についてもセンサー評価表を用いながら職員、家族共に話し合いを持ちどうしても危険がある時のみ使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人や身体拘束廃止、虐待防止委員会に出席し、研修を行っている。年2回のセルフチェックを実施し振り返りをしている。センサー使用については話し合い、使用する理由を明確にし、期限を設定し、使い続けられない等の留意点を再確認し、ケアプランに取り入れ、家族に了承を得ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者が法人の法令順守会議や個人情報管理委員会に参加しびしょ会議で職員に職員に、伝達した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約に関しては、管理者が丁寧にご家族に説明し、疑問点や不安点をお伺いし、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に各階のご家族代表の方に入って頂いたり、ご家族様の面会や電話連絡の中で意見要望をお伺いしている。ご利用者様には毎日の生活の普段の会話の中から小さな事でも気持ちを汲み取るようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が自由に意見を言える雰囲気づくりを行っている。又、月の部署会議では自由に発言できる機会をもうけている。年2回の人事考課の中で面談を行い意見提案を反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、職員一人一人が目標を設定し、取り組み、向上心に繋げている。ストレスチェックを行い、プライバシーを尊重しながら、希望者に対し、産業医と話が出来る体制が取られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	WEB研修に参加したり、法人内の内部研修にそれぞれのテーマで職員が参加できるようにしている。又部署会議時も内部研修を行い、意見交換をし、自己のレベルアップに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会に参加し意見交換や情報収集している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍の為施設見学は行っていない。入所の受付は随時行っており、申し込み時や電話での案内をしている。入所前にはご本人、ご家族、ケアマネージャーと面会し普段の様子や要望を伺い、ケアプラン作成をし支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャーとも情報を交換し、ご家族様思いを伺い、安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様が何を必要としているのかを見極め、他にどんなサービスがあってどう対応するのが望ましいか職員で話し合い、チームとして支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で経験豊富な知識を持つご利用者様を敬い、家族の雰囲気大切に、家族の一員としての関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を密にし、普段の様子を毎月のお便りや電話で連絡し情報を共有し、必要時には協力を依頼し、共に支援している。面会はコロナ禍の為窓越し面会をし、トランシーバーを利用し、少しでも一緒に時間を過ごせるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの場所への外出は控えているが、感染対策を強化し、ドライブ等で外出し、景色を見る事で関係継続の対応とさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、トラブルが無いように努めている。孤立しないように職員が間に入り、利用者様同士が声を掛け合い、支え合うような関係が築けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への入所の際には、コロナ禍で面会には行けませんが、病院や他施設と連絡を取り、ご本人様の状態を伺い、退去後も相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中や、行動、ご家族様から話をお聞きし、一人ひとりの思いや希望、意向を把握できるよう努めている。職員間で情報共有し、介護計画に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様、担当ケアマネジャーより詳しくお話を伺っている。その後に追加された情報についても記録に残し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシート、毎日のカンファ、記録、申し送りノート等で現状の把握に努めている。状態変化時には、話し合う機会を持ち、職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用し、現状を把握している。ご本人様が、より良く暮らしていくことを支えていくため、職員間で話し合い、ご本人様、ご家族様の要望をお聞きし、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、申し送りノート、実施記録表等で情報共有している。ケアの実践、結果、気づきは、その都度記録し、話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様のニーズに対応できるよう努めている。同法人の他事業所との協力体制ができており、専門職と相談し、連携がとれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握している。コロナ禍であり、現在は行われていないが、例年だと地域住民の協力を得ながら、利用者様も地域の一員として行事に参加したり、認知症カフェに地域の人に来て頂いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の要望、希望を伺い、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築き、医療を受けられるように支援している。本人及びご家族様の要望を大切に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中での情報や気づきを毎日のカンファレンスで報告し、提供を実施している。利用者様が、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提供し、状態、情報の提供を行っている。また病院関係者との情報や相談に勤め、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りについての指針が作成されている。終末期については、ご家族様、医療機関との話し合いをもち対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてのマニュアルが作成されている。マニュアルに沿って対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定した避難訓練を他部署や他施設の協力を得ながら年間計画に沿って毎月行われている。災害に対するマニュアルも作成している。今年度は天心会として小規模多機能施設、グループホームが中心となり地域の方々と防災意識を高め、非常災害時の一時避難場所として天心会の建物を使用する事が出来る事を地域の方々にお伝えし、来年度には防災訓練の実施を予定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人を尊重し、個々に合わせた理解しやすいような言葉を用いて声掛け会話をしている。サービス向上委員会では、接遇リーフレットや接遇のポスターを、作成、掲示し接遇改善に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を言葉や動きの中から見出し、実行できるようにしている。思いや希望の表出の少ない方にも、言葉かけを多く行い、自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望を伺ったり、ペースに合わせてながら、好んで行われる活動をして頂いたり、休息をとって頂いたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や好みに配慮しながら、衣替えを行ったり、衣類の調整を行っている。整髪はコロナ禍で外出が難しい為、出張利用を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	ホームの畑の野菜を収穫、調理し、味わって頂く。野菜の皮むき等、下ごしらえ盛り付け、茶碗拭き等をして頂き、楽しみながら食事づくりに参加して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に摂取量の少ない方には、チェック表を用いて確認をする。介助や声掛けを行っている。利用者様の好みを考慮し、お茶時には好みの飲み物を準備し水分が撮れるようにしている。苦手な食べ物がある時には他のものを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後、就寝前に、歯磨きうがいの声掛けを行い、口腔内の清潔保持を行っている。義歯使用の方には洗浄剤にて消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを見直し、排泄間隔を理解し声掛けをしてトイレにお誘いをし尿意・便意の間隔が戻るように支援している。また、おむつの量が減った方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に食物繊維が多い手作り寒天を提供したり、水分摂取の少ない方には好みの飲み物を提供し水分を多くとって頂いている。朝のラジオ体操も取り入れ規則正しく体を動かし体調を整えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を好む方やそうでない方と気分があり、時間や言葉かえに工夫しながらお誘いしている。入浴剤を選んでもらったり、冬には柚子湯を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の習慣で、休息したり、就寝されている。その方のペースに合わせ、安心してゆっくり休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	複数の職員が関り、誤飲や飲み間違いのないようにチェックし、カップやトロミを使用し服薬して頂いている。薬の内容について利用者様に尋ねられた時はお伝えできるようにし、服薬中の変化についても観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事や出来ることを行って頂く事で明るく、充実した生活を送って頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた場所に行き気分転換を図っている。本人の希望を伺い、希望に添えるように対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして事務所で預かっているお金があり、外出時や買い物の際に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が希望される時や不安な時に声を掛け、いつでも連絡が取れる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様で過ごす空間や廊下に季節ごとの花や絵、写真と行事の写真を飾り、今月の予定等のお知らせして、利用者様同士が会話を楽しまれ、居心地の良い毎日を過ごして頂けるよう心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色を見ながら話をされたり、思い出話をしたり、気の合う方とお部屋で談笑されたりしている。また、食事や家事のお手伝いをして頂き、気持ちよく充実した日々を過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	馴染みの家具やアルバム、日記、塗り絵等を持参されいつでも自由に見たり書いたりして頂いている。思いで話しの一つになっている。居室の掃除際はプライバシーに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の状態に合わせて、安心して生活が送れるようご家族様の協力や専門業者の方に安全に過ごせるよう環境整備に工夫している。		